

第29回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：優秀賞（高学年の部）

タイトル：ひいおじいちゃん、ありがとう

氏名：山城 日向乃（ヤマシロ ヒコノ）

小学校名：沖縄県 南城市立佐敷小学校 四年

四月二十八日、ひいおじいちゃんが亡くなりました。九十六才の大往生でした。晩年は老人ホームで暮らしていたので、私はたまにひいおじいちゃんに会いに行きました。

「おお、よく来たね。おこづかいをやろう。」

私の知っているひいおじいちゃんは、真面目でおだやかでやさしい気づかいのある人でした。そんなひいおじいちゃんは、若い頃おまわりさんとして働いていたそうです。「どんなおまわりさんだったんだろう。」ふと私はおまわりさんとしてのひいおじいちゃんについて考えるようになりました。

私は車いすで学校生活を送っています。たまにお母さんに介助してもらいながら車いすで学校までの道のりを歩きます。外はきけんがいっぱいです。スピードを出す車はもちろん、歩道を走る自転車やでこぼこ道など私は外の世界を一人で歩くことが出来ません。いつもお母さんがついてくれますが、朝の通学時はスクールガードや保ご者、おまわりさんも私たちの安全を見守ってくれます。「ひいおじいちゃんもこんな風に地いきの人々を守ってくれたんだろうな。」そう思うと、とてもうれしくほこらしくなります。

学校で、いろいろなお仕事について調べる学習がありました。先生が

「ひいおじいちゃんがどんなお仕事をしていたのか、家の人にたずねてみたら。」

と言ったので、おじいちゃんに質問をしました。ひいおじいちゃんは最初交番で働いていたそうです。ひろい物の保管や迷子のほご、交通整理など困っている人々のために親切に接するおまわりさんだったそうです。

孫のお母さんが今でも心に残るエピソードがあります。家に入ってきたハブをひいおじいちゃんがカマで退治するすがたを目前で見たそうで、ハブよりひいおじいちゃんの方が何倍も恐ろしかったと教えてくれました。ハブの退治までする沖縄のおまわりさんは、とても勇かんだなあとびっくりしました。

ひいおじいちゃんはとても強くて怖い人だったのでしょうか。おじいちゃんに聞くと、そんなことはないそうです。でもけいさつかんにとって基本である空手、じゅう道、剣道の訓練はもちろんのこと帰宅後もジム通いやマラソンなど常に体をきたえる努力をしていたそうです。また学校にいる子供たちが悪いことをしないよう、こう話をする仕事に生きがいを感じ、法律の勉強も一生けん命がんばっていたそうです。

世の中には怖い出来事やきけんがあり心配になる時もありますが、ひいおじいちゃんの

ようなおまわりさんがいると人にたよっていいし、安全な生活を過ごすことができます。

ひいおじいちゃん、ありがとう。長い間おつかれ様でした。そして今日もがんばっているおまわりさんへ。どうか世界中をお守り下さい、ウニゲーサビラ（お願いします）。